

# 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成２４年度 第１回 高松市景観審議会
開 催 日 時	平成２４年５月２３日（水） １３時３０分～１５時００分
開 催 場 所	高松市役所 １１階 １１４会議室
議 題	(1) 会長の選任について (2) 高松市屋外広告物条例の改正に向けて (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	－
出 席 委 員	牛山 泰博, 浦 篤正, 杉本 三枝, 増田 拓朗, 松島 学, 渡辺 裕之, 坂本 信孝, 橋田 行子, 吉岡 和子, 森口 俊宏, 大西 泰史, 鈴木 敦子, 原内 純治
欠 席 委 員	井上 雅子, 川東 祥次, 山地 一敏
オブザーバー	－
傍 聴 者	－
担当課および 連 絡 先	都市整備局 都市計画課 Tel ８３９－２４５５ Fax ８３９－２４５２

会議経過および会議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。</p> <p>次のとおり、審議会を開催した。</p> <p>(1) 会長の選任について 高松市景観審議会条例第６条第１項の規定により会長を選出した。 会長 松島委員 会長は、会議を公開するとの確認を行った。</p> <p>(2) 高松市屋外広告物条例の改正に向けて 事務局より説明</p> <p>(3) その他 次回の審議会を平成２４年７月３０日（月）午前１０時から開催する旨を確認した。</p>

審議経過	
(会長)	今回は、意見をまとめるというより、自由に意見を出していただくようにしたいと思うので、委員の皆さんの自由な御意見をお願いしたい。
(委員)	<p>都市の活性化や活気という面から考えると、ヨーロッパのように統一性のある景観が美しいという考え方と、アジア的で雑多な雰囲気の方がよいという考え方の両面があり、どちらが良いか判断するのはなかなか難しい。都市の活気と景観のバランスをとることが課題である。</p> <p>やはり地域特性に応じた許可基準の設定が大切であり、市内で一律に規制をかけると、どちらかの都市の様相に偏ってしまう恐れもあるので、例えば土地利用、用途地域や景観ゾーンごとに、検討していくことが必要である。</p> <p>既存不適格広告物の取扱いは悩ましく、地道に啓発活動等に取り組んでいくことで、自ずと良くなっていくと考えるが、対応について性急に決定すると無理が生じるのではないかな。景観計画では、国道１１・１９３号沿道を景観形成重点地区に指定していることなどから、例えばこの地区を「モデル地区」のような取扱いとして、市街地部分から郊外地域に連続する部分でどのような規制とするのか、検討を先行させてみてはどうか。</p>
(会長)	国道１１・１９３号沿道は市街地から田園居住地を含む多様な地域特性を有する地区であり、今後考えていきたい。
(委員)	<p>広告物については、赤や黄色が悪くて、白色が良いというものではないので、一律に規制をかけるのは難しい。色彩だけではなく、デザインも含めて考慮する必要がある、感性の問題も大きい。</p> <p>高松市として、規制をかけるという方向性を決めたのであれば、市が正解と考えるルールに協力していきたい。</p>
(委員)	高松市に編入合併された地域については、現在の屋外広告物条例の規制はかかっているのか。
(事務局)	合併された地域についても、高松市の規制が適用されている。ただし、県条例の許可基準に適合するもので、市条例の許可基準に適合しないものについては、既存不適格広告物として許可している。
(委員)	そもそも、市民にとって交差点等の広告物が既存不適格であるという意識はあるのか。条例を見直した場合、どこから線を引くのが難しい。新設される広告物から適用されるのか。
(会長)	既存不適格広告物であるからと言って、いつまでもそのまま良いというわけではないので、難しい問題である。
(委員)	許可申請が不要な広告物の中に「公職選挙法等による選挙運動のために表示するもの」

	とあるが、郊外に多く貼っているものについてはどうにかならないのか気になる。
(事務局)	選挙活動のための事務所の看板等は、基本的に自家用広告物ということになるので、許可基準を満たしていれば適合で設置可能である。
(委員)	始めに会長が言われていた「景観なのか、サインなのか」という考え方について、私たちはサインを必要とはしているが、景観の観点から考えると、どこまでのサインが許容できるラインなのかを知りたい。
(会長)	例えば、資料P 11の看板は店舗等への案内を目的とした看板であるが、これらを禁止のままでよいのかという議論もある。このようなものに関しては、色を落とすなどで対応するなど、広告物はサインとしての役割もあり、景観の問題とのバランスを考えていくことも必要である。
(委員)	許可基準については、広告物の大きさが景観に与える影響が大きいと感じている。色彩については、多くの人が見苦しい／見苦しくないと感じるラインを探っていくことが必要である。
(委員)	<p>広告主は色が派手で、よく見てもらえる交差点部への設置を好む傾向にある。全ての地域で一律に規制をかけるのではなく、場所の住み分けが必要となる。</p> <p>許可基準についても、広告物を設置する場所、色彩、大きさ等の問題に特に留意する必要がある。</p>
(会長)	広告物の大きさや場所、色彩の基準については、今後議論していく必要がある。
(委員)	<p>今回の屋外広告物条例の改正については、昨年度策定した景観計画における「屋外広告物の表示および掲出物件の設置に関する事項」の内容を踏まえる必要があり、この部分は非常に重要であると考えられる。</p> <p>今回は規制対象地域を見直すということであるが、景観計画におけるゾーニングと、屋外広告物条例の規制区分をどのように整合を図っていくかがポイントとなる。全市的に大規模な建築物のみを対象とした景観ゾーンの考え方と、屋外広告物条例の規制区分が同じものでよいのか、そのバランスを検討していく必要がある。</p> <p>また、景観計画においても色彩基準の設定がポイントとなっていたが、今回の屋外広告物条例でもその視点は大切になってくると考えている。</p>
(委員)	屋外広告物の色彩については、何パーセントまでは大丈夫というような、比率の限度を基準に設定できないものか。
(委員)	香川県においても屋外広告物条例により県下で規制を行っているが、対象としているのは一般広告物のみであるため、今後は県下でも自家用広告物の規制についても検討していく必要がある。

	<p>屋外広告物については、サインという意味合いもあるので、一律に全てを規制するというのではなく、地域特性に応じた基準や色彩等について検討していくことが重要であるが、出来る限り時間をかけて十分に議論を行っていく必要がある。</p>
(委員)	<p>広告物については、色彩や大きさの問題が主に取り上げられているが、広告の文章が長すぎたりすると、交通安全の視点から危ないと感じる。キャッチフレーズやセンテンスの規制というものは考えられないものか。</p>
(委員)	<p>「地域特性に応じた許可基準」とあったが、高松市における地域特性とは何かがはっきり分からない。また、高松市以外の自治体では、屋外広告物の規制についてどのような取組を行っているのか知りたい。</p>
(会長)	<p>先進的な事例としては、京都市や金沢市などの観光地が挙げられる。これらの場所では、チェーン店舗でもコーポレートカラーを利用することができないことがある。</p> <p>高松市においては、景観計画で定めた景観形成重点地区などの特徴的な場所で、その地域特性に応じた許可基準を設定することが考えられる。</p>
(委員)	<p>明らかに基準を逸脱したものについては、罰則の厳罰化を検討することも必要ではないか。きちんとした人が損をするような状況になってはいけないと思う。</p>
(会長)	<p>今後は、何らかの形で違反広告物の是正を行える仕組みづくりを考えていかなければならない。</p>